

授業改善プラン

地域名	葛南教育事務所	学校名	市川市立第六中学校
-----	---------	-----	-----------

1. 課題（これまでの全国学力・学習状況調査結果等から）

令和5年度の平均正答率がすべての領域において、県や全国を上回っている一方、「C関数」が県や全国と比べてやや上回っており、課題と考えている。また、無答率が県や全国に比べて低く、難しい問題でも諦めずに取り組んでいることがわかる。生徒質問紙調査では、「数学の勉強は好きですか」「数学の勉強は大切だと思いますか」「数学の授業の内容はよく分かりますか」という質問に対し肯定的に回答した生徒の割合は、県や全国平均を上回っている一方、「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」という質問に対しては、県や全国平均を下回っている。このことから、学んだことを日常生活や社会に活用することが課題であると捉え、主体的に学習に取り組む生徒の育成を研究の柱と考えた。

2. 取組のポイント（仮説、改善方法等）

- ① 小中連携を意識した小学校の学習内容の復習（見いだす）
- ② 教え合い、学び合い活動を通しての協働的な学びの推進（広げ深める）
- ③ 振り返りシートの活用（まとめあげる、見いだす）
- ④ 授業研究会の実施

3. 具体的な実践

- ① 小中連携を意識した小学校の学習内容の復習（見いだす）

小学校で使用した教科書を用いたり、指導者用デジタル教科書を使ったりして、小学校の学習内容の復習を適宜行った。
- ② 教え合い、学び合い活動を通しての協働的な学びの推進（広げ深める）

ペアやグループ等での教え合い、学び合い活動を積極的に取り入れた。生徒がサブティーチャーとなり、わからない生徒が理解できるように教えることを目指すよう指導した。
- ③ 振り返りシートの活用（まとめあげる、見いだす）

振り返りシートを毎時間、授業の終わりに行った。「学習のめあて」を記入し、「授業の取り組み」と「理解度」を、「Aよくできた」「Bできた」「Cできなかった」の3段階で自己評価を行い、「授業を振り返って」では、授業で分かったことや疑問に思ったこと等を記入した。

④ 授業研究会の実施

全国学力・学習状況調査の課題を意識し、日常生活で身近にあるものを素材にした。第1学年「方程式」では、薄力粉と砂糖の重さを使った比の利用の問題を、第3学年「二次方程式」では、正方形の紙の枚数とマグネットの個数の関係を扱った。また、第2学年「一次関数」では、1人1台端末の電卓機能を活用し、各自が様々な一次関数のグラフを作成し、それをもとにグラフの傾きや切片を求める問題を作成した。

4. 成果

- 小学校の教科書や指導者用デジタル教科書を活用し、小学校の学習内容を復習することで、既習事項の確認がスムーズにできた。また、小学校で学習したことから本時の学習課題に向けて新たな問いの発見につながった。(見いだす)
- 教えられる生徒の理解につながるとともに、わかりやすく教えることを意識することで、教える生徒の理解もより深まった。また、多様な考えを聞くことで新たな考えに気付いたり、お互いの考えのよさを知ることができたりするなど、深い学びにつながっている。(広げ深める)
- 振り返りシートを活用することで、授業で分かったところ、疑問に思ったところ、新たに発見したこと等を自分の言葉でまとめることができるようになった。(まとめあげる) さらに、疑問に思ったところから、新たな問いの発見にもつながった。(見いだす)

◆担当指導主事から (葛南教育事務所 指導主事 鴫田 拓也)

- 算数の既習内容を想起させるなど、小中連携を意識した授業改善を行うことで、数学における単元の内容の定着につながるとともに、単元の系統性を意識させることができていた。また、自力解決の時間を確保した上で、ペアやグループ活動を意図的に設定したことにより、協働的な学びを通して、深い学びへとつながっていた。毎時間行っていた振り返りシートを、次につなげる学びに活用できるよう、引き続き研究を続けていってほしい。